

B G A L O G による J T D X と W S J T - X のデータの共有方法

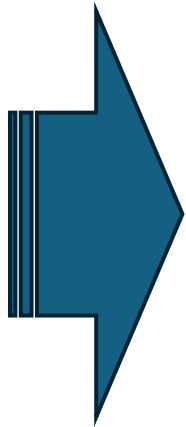
コマンドプロンプト (`mklink /h`) により
ハードリンクを作成して使用方法を説明します。
(J T D X 側のデータ 1 本とし、 W S J T - X 側は J T D X 側を使用)

**この処理が完了すればいずれのプログラムを使用しても
自動で共有されます。**

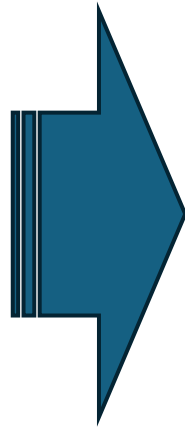
次の3ページの作業はB G A L O Gから正しい交信内容の [wsjtx.log] [wsjtx_log.adi] を作成するための物であり既に1本化出来ている場合は、3ページの作業は不要で、4ページから作業してください。

流れ図

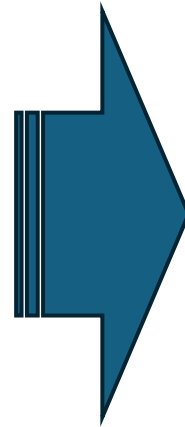
B G A L O G 内のデータから
[wsjtx.log] [wsjtx_log.adi] を作成



コマンドプロンプト (mklink /h) により
ハードリンクの仕組みをP Cに作成
(パーシエルでなくコマンドプロンプト
[cmd.exe] での実施が必要)



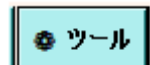
ハードリンク機能を確認
W S J T I X で Q S O した内容が J T D X 側
に登録されているか確認



ハードリンク (共有) 完了
以後は J T D X 側のデータのみを自動で使用
(通常これらの作業は今後不要)

手順

- 1 最初にB G A L O G内でF Tのデータを作成
ボタンで不正データを事前に修正して
おaitakudaisai.



不正データチェック・自動補正

不正データが有ると途中でハングアップの可能性が有ります。

JTDX、WSJT マージ ログデータ「wsjtx_log.adi」の作成 をクリック (B G A L O G内にデータが作成されます)

- 2 ②のアドレスを確認 (正確に記入してください。)

- 3 上記作成DT & アドレスを登録
上記アドレス ⇒ 環境ファイルへ登録
作成データ ⇒ JTDX、WSJT
ボタンで作成したデータを上書き
(失敗した場合はB G A L O G内に作成された [wsjtx.log] [wsjtx_log.adi] を
J T D Xのフォルダーにコピーします。)

- 4 コマンドプロンプト を用いてハードリンクの仕組みを作成 (次ページ)
ハードリンクが完成すれば、以後はデータが共有 (使用) されます。

- 5 正確に書き込まれているかを確認

以上でB G A L O G側は終了

FT LOGデータ共有 (BGALOGのFTデータをJTDX、WSJTと共有)

① FT データ作成 JTDX、WSJT マージ ログデータ「wsjtx_log.adi」の作成

② JTDX

C:\Users\ja5bg\AppData\Local\JTDX\wsjtx_log.adi

② WSJT

C:\Users\ja5bg\AppData\Local\WSJT-X\wsjtx_log.adi



正確に記入
同じ日付のデータ
が書き込まれているかを確認

コマンドプロンプトを使用 (MS-DOSの世界で少し難しいですが、頑張ってください。)

1. スタートメニューを開く。
2. 「cmd」と入力。
3. 「コマンドプロンプト」を右クリックし、「管理者として実行」を選択



mklinkコマンドは、コマンドプロンプト (cmd.exe) で実行する必要があります。

PowerShellでは (mklinkコマンド) は直接使用できません。以下の手順でコマンドプロンプトを開いてください。

ターミナル(管理者) = PowerShellのため使用不可 (PowerShell からcmd.exeを起動して使用方法 P-5)

mklink /D WSJTのアドレス JTDXのアドレス を指定します。

当方の入力した例: ja5bgaの部分は各PCごとに異なります。(スペースや記号に注意)

★ アドレスは正確に ★

```
mklink /h C:\Users\ja5bga\AppData\Local\WSJT-X\wsjtx_log C:\Users\ja5bga\AppData\Local\JTDX\wsjtx.log
mklink /h C:\Users\ja5bga\AppData\Local\WSJT-X\wsjtx_log.adi C:\Users\ja5bga\AppData\Local\JTDX\wsjtx_log.adi
```

この2つのコマンドによりWSJT-XがJTDXに読み替えられます。

アドレスの確認方法

★ 5、6ページも同時に理解してください ★



右クリックでパスのコピーで [C:\Users\ja5bga\AppData\Local\JTDX\wsjtx_log.adi] の様に確認できます。
(メモ帳等へ貼り付け (ja5bga:pc名等は要変更) で確認してください。)

パーワーシェルで [mklink /h] を実施すると次のようなエラーが発生します。

```
PS C:¥Users¥ja5bg> mklink /h C:¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥WSJT-X¥wsjtx_log C:¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥JTDX¥wsjtx.log
mklink: The term 'mklink' is not recognized as a name of a cmdlet, function, script file, or executable program.
Check the spelling of the name, or if a path was included, verify that the path is correct and try again.
```

次のCMDコマンドをパーワーシェル内で実施するとcmd.exeに切り替わります。

```
PS C:¥Users¥ja5bg> cmd
Microsoft Windows [Version 10.0.22631.3880]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.
```

[mklink /h] 実行結果：2行目はシステムからの結果レポート

```
C:¥Users¥ja5bg>mklink /h C:¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥WSJT-X¥wsjtx_log C:¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥JTDX¥wsjtx.log
C:¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥WSJT-X¥wsjtx_log <<====>> C:¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥JTDX¥wsjtx.log のハードリンクが作成されました
```

```
C:¥Users¥ja5bg>mklink /h C:¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥WSJT-X¥wsjtx_log.adi C:¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥JTDX¥wsjtx_log.adi
C:¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥WSJT-X¥wsjtx_log.adi <<====>> C:¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥JTDX¥wsjtx_log.adi のハードリンクが作成されました
```

ハードリンクの関係

- **リンク**: 新しく作成されるファイルの名前。これはハードリンクとして機能します。
- **ターゲット**: 元のファイルのパス。ハードリンクが指す実際のデータを持つファイルです。

動作の詳細

1.データの共有:

ハードリンクとターゲットファイルは同じデータを共有します。どちらかを編集すると、もう一方にも変更が反映されます。

1.ファイルの削除:

ハードリンクまたはターゲットファイルのどちらかを削除しても、データ自体は他のリンクが存在する限り残ります。

注意点：

ジャンクシヨンなのにリンク先をファイル名にしたり、シンボリック・リンクのリンク先のファイルとフォルダの種類を間違えてしまっても、エラー・メッセージは表示されないので注意していただきたい。実際にアクセスしようとして初めてエラーとなる。

※ハードリンクの情報を表示させてみる。

```
C:¥Users¥ja5bg>fsutil hardlink list C:¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥JTDX¥wsjtx_log.adi  ➡入力したコマンド
¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥JTDX¥wsjtx_log.adi
¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥WSJT-X¥wsjtx_log.adi
```

```
C:¥Users¥ja5bg>fsutil hardlink list C:¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥JTDX¥wsjtx.log  ➡入力したコマンド
¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥JTDX¥wsjtx.log
¥Users¥ja5bg¥AppData¥Local¥WSJT-X¥wsjtx_log
```

※↑↑↑1つのファイルが、2つのパスとしてリンクされていることが分かる。通常のファイルでは1つしか表示されない。

wsjt-xでのQS0結果：いずれのファイルにも登録されリンクがうまくいっていることが分かりました。

H T D X 側データ

10244	BW/JA5XAE	PL05	FT8	+16	-10	20204420	074400	20240714	074400	15m	21.0893	JA5BGA	PM63
10245	XU7GNY	OK22	FT8	+17	+00	20206420	084515	20240716	084615	17m	18.102318	JA5BGA	PM63IS

W S J T - X データ

10244	BW/JA5XAE	PL05	FT8	+16	-10	20204420	074400	20240714	074400	15m	21.0893	JA5BGA	PM63
10245	XU7GNY	OK22	FT8	+17	+00	20206420	084515	20240716	084615	17m	18.102318	JA5BGA	PM63IS

この方法がうまくいかない場合は、従来からあるBGALOG内でのマージを適宜行い同期（共有）を図ってください。
次ページに簡記しておきます。

J T D X 等から B G A L O G に取り込まれていないデータを自動取り込み

★ B G A L O G へ未取込のデータを抽出取込
★★ 処理時間が非常に大★★ (1万データで数分要)

右の指定フォルダーから B G A L O G に未取り込みのデータを自動で取り込み
取り込み結果は、「MSG.TXT」に出力

注意：
通常の A D I F ファイルからの取り込みは次より取り込んでください。
このツールは個別にデュープチェックをしながら取り込みが実施されます。
メイン画面 ⇒ ツール ⇒ 外部ソフトからのインポート

多くの時間を要しますので注意願います。
右のオプションを事前に選択しておいてください。

FT オプション画面

取込先フォルダー: 1=JTDX、
: 2=WSJT
: 3=BGALOG
 4=取込確認無

JTDX、WSJT LOG未登録チェック実施 & 自動取込 1

FT LOGデータ共有 (BGALOGのFTデータをJTDX、WSJTと共有)

① FT データ作成 JTDX、WSJT マージ ログデータ「wsjtx_log.adi」の作成

② JTDX C:\Users\ja5bg\AppData\Local\JTDX\wsjtx_log.adi

② WSJT C:\Users\ja5bg\AppData\Local\WSJT-X\wsjtx_log.adi

③ 環境登録 & 作成DT上書

上記作成DT & アドレスを登録
上記アドレス ⇒ 環境ファイルへ登録
作成データ ⇒ JTDX、WSJT

DT未削除
 DT削除

JTDXとWSJT-Xのデータ共有方法マニュアル表示 この画面の他、

B G A L O G のデータを基にマージを作成

B G A L O G のデータから [wsjtx.log] [wsjtx_log.adi] を作成して b g a l o g フォルダ内に作成

B G A L O G フォルダの上書き

[②] で書き込んでいる [JTDX] [WSJT-X] のフォルダに上書きで書込み
書き込み後、B G A L O G フォルダに 残す、 削除を選択

このマニュアルを表示します。